



亀山 愛結 (かめやま あゆ) 松枝小 5 年生

作品名：「ワンダー」を読んで

図 書：ワンダー


みなさんはだれかに対してへん見を持っていませんか。私は持っていないと言えないと思います。オーガストはふつうの男の子。ただし顔以外は…。この本は未知のタイプの下がく顔面異骨しょうの男の子、オーガストが学校に行き変わっていく物語です。オーガストは初めは差別されてしまいますが、だんだんオーガストをみんなが受け入れていき、オーガストだけでなく関わった人たちも変わっていきます。

例えば、同じクラスのシャーロットは初めはうわさをしたり、見ないようにしたりしていましたがオーガストと関わることによって、考えを変えていきます。オーガストのおもしろく、優しい性格を知ってクラスの中で仲良く話すようになりました。しかし、同じクラスのジュリアンはとてもいじわるな男の子でとても人気でしたが、シャーロットたちが変わってからは一人になってしまいました。

私は自分のことをシャーロットみたいなタイプだと思います。もし、オーガストのような子がクラスに入ってきたら、はじめはうわさをしてしまうし、話しかけないだろうと思ったからです。でも、性格を知らなければふつうに関われると思います。

私もシャーロットと同じような経験をしたことがあります。私は友達とけんかをした時、その友達のことを「変な人だな」と思い、次の日、他の子たちがその友達の悪口を言っていた時に同調してしまいました。そして、その友達に対して、勝手なイメージを持ってしまい、仲良くする気にはなれませんでした。でも、少しずつその友達と遊ぶようになって内面を知り、仲良くなることができました。今では友達でいてよかったと思っています。私のこの経験は、シャーロットがオーガストに対してとった行動と似ていると思います。シャーロットも最初はへん見を持っていたけれど、オーガストの内面を知り、考えや態度が変わりました。

私はこの本を読んで初めて、「ふつうって何？」ということを考えました。そして「ふつう」というのは人間が勝手に作った基準のことだということに気づきました。自分が思っている「ふつう」とは経験やかんきょうで作られている



るので、自分とほかの人との「ふつう」はちがうとこの本を読んで分かりました。これからは、いろんな人がいて、いろんな考え方があるということを意識していろんな人と関わりたいと思います。また、へん見を持っていると自分も損をすると思いました。なぜなら、その人の本当の性格を知らないとその人のいいところもみつからないからです。

これから、外国の人や障害を持った人などに関わるが多くなります。この本を読んでオーガストから学んだことを大切にしていきたいです。